

# ソルフェージュの教材作成

幸 地 多喜子

Teaching Material Making for Solfege

Takiko Kochi

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別冊

平成 30 年 2 月 28 日 発行

## ソルフェージュの教材作成 Teaching Material Making for Solfege

幸地 多喜子

Takiko Kochi

### はじめに

豊岡短期大学通信教育部こども学科学習サポート校、姫路大学教育学部こども未来学科通信教育課程教育支援校である本学院、沖縄学院で、幼稚園教諭・保育士の資格取得を目差し、学業に励む学生の年齢層は幅広く、ほとんどが勤労学生である。また、それぞれが置かれている社会的環境、音楽的環境は多種多様であり、自ずと自己表現の方法や表出される音楽表現も多様である。

義務教育の中の音楽教育で身に付けた知識や感性はそれぞれの中に内蔵され、無意識の内に表出される。たとえば、鍵盤の上に右手を置くと、聞き覚えのあるメロディーを自然に奏することができる、耳で音を覚え歌う、模唱で正しく音程を取り歌う等である。

しかし、本学では、音楽（音楽理論・ソルフェージュ・声楽・ピアノ・その他の楽器）の専門教育を受けた経験のある学生は、皆無に等しく、初心者である学生にとって、両大学のテキスト「こどもと音楽表現Ⅰ（ピアノ）」や「こどもと音楽表現Ⅱ（声楽）」の指定教材である「コンコーネ 50 番練習曲より No.1～No.5」を演奏することは難しい。

そこで、初心者に必要な音楽的基礎力を身に付ける音楽教材、ソルフェージュの学習が大切になる。しかし、義務教育の中の「音楽」科目を学習してから4年～50年の歳月が経っている学生に対し、市販のソルフェージュは難しい。舟橋は<sup>1)</sup>日本の総合的な音楽基礎教育として、ソルフェージュ教育を、現状に即した体系に整備し直す必要があると述べている。本学院に入学して1年以内という短期間で、大学が課した試験曲を一通り弾けるようにするためには、対象である学生の現状を理解し、現状に即した学習意欲を高める教材で指導する必要がある。そのことによって、それぞれの感性を生かし、潜在能力を引き出すことができると考える。

これらのことを踏まえ、こどもの頃誰でも口ずさんだであろう童謡や幼児曲のフレーズを用いたリズム打ち（一声二声）と順次進行から6度の跳躍へと進む、視唱曲のソルフェージュ教材を作成したので報告する。

## 本 論

### 1. 音楽的基礎力調査の方法と調査結果

2017年8月、学生の音楽的基礎力を捉えるため、アンケート調査を行った。対象は、本学院で保育士・幼稚園教諭の資格取得を目差す、豊岡短期大学通信教育部こども学科1年生23名、姫路大学教育学部こども未来学科通信教育課程3年生12名とした。調査は9項目について行ったが、次の4項目について結果を報告する。① ピアノを習ったことがある、② ト音記号のトから三点ハマまでの音符を読める、③ ヘ音記号のはから一点ホまでの音符が読める、④ 四分の四拍子、四分の三拍子、四分の二拍子、八分の六拍子の各拍子について理解している。

調査の結果は、豊岡短期大学1年生、① 26%、② 48%、③ 17%、④ 17%であり、姫路大学3年生、① 25%、② 50%、③ 25%、④ 30%であった。これらの結果から、両大学の学生ともに、音楽的基礎力は低いと捉えた。

### 2. 本学学生のためのソルフェージュ教材作成の必要性

これらの調査結果から、本学院入学前にピアノを習った経験がない、読譜ができない、拍子について理解できない学生多いという状況を踏まえ、限られた時間内で、音楽基礎力を高め、「こどもと音楽表現Ⅰ（ピアノ）」「こどもと音楽表現Ⅱ（声楽）」の実技課題曲を演奏し、歌うためには、指導を受ける学生、指導する講師ともに工夫を凝らす必要がある。

呉 暁は、「リズム感と音感と譜読みの基礎を築くためには、4～5歳で楽器を始める前にソルフェージュを習うのが一番良いということが分かってきた」と述べている<sup>2)</sup>。しかし、本学院のほとんどの学生は、これまでにソルフェージュの学習をしたことがないが、入学後にピアノや声楽の実技の前に、音楽の基礎（読譜、リズム読み、一声のリズム打ち、二声のリズム打ち、正しい音程とリズムで歌う、メロディを支えている和音を感じ取る）を学び、演奏技術を段階的に習得していかなければならない。幼児や児童生徒、音楽高校、音楽大学受験生のためのソルフェージュのテキストは多く見られるが、保育士や幼稚園教諭の免許取得者のためのソルフェージュは少ない。

### 3. 作成したソルフェージュの教材内容

そこで、次のような学生用の教材を作成した。ソルフェージュ課題Ⅰは一声のリズム打ち、二声のリズム打ちであり、ソルフェージュ課題Ⅱは視唱である。以下に作成した内容を紹介する。

課題Ⅰ、一声のリズム打ちは基礎リズムを用いた（図1）。基礎リズムは小学校「音楽6」<sup>3)</sup>の教科書に掲載されているリズムの種類を用いた。詳細は表1に示した。導入は、リズム読みを用い、リズム読みは小学校「音楽2」<sup>4)</sup>、音楽導入テキストリズム・ワーク<sup>5)</sup>に準じて用いた。幼児へのリズム表現の指導に活用できるよう、各リズムの名前や長さは表1に記載した。リズムの名前や長さを理解し、一定のテンポで、一声のリズムを右手で机の上を打ったり、カスタネットで打ったりする。展開

としては、同じ拍子の複数の課題をリレー奏したり、複数の学生で、別々の課題を指揮者の指揮に合わせて、リズムアンサンブルを行うと、緊張感が保たれる。課題によっては、幼児曲の一部分と同じリズムのため、歌いながらリズムを打つと理解が容易である。図2は、二声のリズム打ちである。幼児曲の一部分を取り出し、歌に合わせてリズム打ちができるようにした。上段は右手で机の上を打ち、下段は左手で机の上を打つ。各課題の幼児曲名等<sup>6) 7)</sup>、詳細は表1に示した。

図3は、ソルフェージュ課題Ⅱ、視唱（音名唱）である。拍子は四分の四、四分の三、四分の二、八分の六であり、調性は、ハ長調、ト長調、ヘ長調、イ短調とした。音域はトから二点ホであり、各課題にコードネームを記した。主要三和音を中心に副三和音も用いた。次の手順で練習する。

- ① 講師の左手和音伴奏に合わせて、正しい音程で歌う
- ② 学生自身で和音伴奏し、メロディーがどのような和音に支えられているか、目と耳で確認しながら歌う
- ③ 無伴奏で歌う。課題の一部のコード進行は、テキスト「弾き歌い」へスムーズに移行できるよう、テキストにある幼児曲と同じ形を用いる<sup>8)</sup>。

### 考察とまとめ

幼児教育の現場では、生活の歌、季節の歌、行事の歌と多くの童謡や幼児用の曲が歌われている。学生は将来、幼児教育の現場で、幼児と一緒に歌う場面が多々ある。保育士と幼稚園教諭は幼児と一緒に歌うことによって、音楽の美しさ、楽しさをより体感でき、歌に込められた人間の感情や情景を体で表現することで、幼児と一体感をもつことができ、幼児の情操を豊かに育てていく。

確かに、ピアノ初心者で音楽の基礎力が低い学生がピアノや声楽（コンコーネ 50 番練習曲）の演奏技術を習得するのは容易ではないが、保育園や幼稚園、認定こども園では、一日が歌で始まり、歌で終わる。つまりは幼児教育の現場では「弾き歌い」の能力は不可欠である。

ピアノ「弾き歌い」は、幼児と目を合わせながら、表情豊かに語り掛けるように歌わなければならない。そのためには、ゆとりのある演奏技術が必要不可欠であり、そのような技術を身に付けるための、十分な音楽基礎力が要求される。そこで、音楽を基礎から学ぶ、ソルフェージュの学習は必須である。

ほとんどが勤労学生であり、学習時間に限りのある本学院の学生はピアノや声楽のレッスンと並行して、ソルフェージュの学習をする必要がある。本論文では、本学院の学生の置かれている状況に即したソルフェージュの教材の作成を行った。しかしながら、本教材には今後の課題もある。

第一に、本教材を使用した効果をどのように立証するかである。そのためには、本教材を用いて授業を行い、学習の効果が上がったかどうかについて評価する必要がある。つまりは介入によって、データを蓄積し、本教材の信頼性や妥当性を検証しながら、効果を立証していく必要がある。そのためには、単に、成績という数値的評価結果のみならず、学生の感性にどのように届いたか、実践時の学

生の反応はどうだったのか、学生の学習満足度はどうだったのか等、質的評価結果も必要になってくる。

本論文で報告した教材の試作教材を試験的に、本年8月に姫路大学3年生の「ソルフェージュスクーリング」時に使用した。その時に実践したリズム打ち（一声、二声、三声、四声）とピアノのテキストを用いて行った視唱が、ピアノ演奏をする上で、どの程度役に立ったか等について、アンケート調査を行い、今後の教材作成研究の根拠となる基礎資料としたいと考えている。

また、学生を取り巻く職場や家庭等の社会的環境、楽器や教材所持等の物的環境、指導者等の人的環境によって、どのように、音楽基礎能力が向上し、演奏技術が時間の経過とともにどのように変化していくのか、今後もサポートを継続する中で観察し、評価して、ソルフェージュの教材を改善していきたいと考えた。

## 結 論

ほとんどが勤労学生で、学習時間に限りのある本学院の学生はピアノや声楽のレッスンと並行して、ソルフェージュの学習をする必要がある。今後も、作成したソルフェージュの効果を立証しながら、本学院の学生の置かれている状況に即したソルフェージュの教材の作成を継続していく必要がある。

## 引用文献

- 1) 舟橋三十子：音楽基礎教育としての独創的なソルフェージュ教材開発に関する総合的研究、1-4，日本学術振興会。 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-25370119/25370119seika.pdf> (参照 2013-2016)
- 2) 呉 暁：ピアノ上達はソルフェージュから、1-220，音楽之友社（東京），2013
- 3) 小原光一 監修、小学生の音楽 6，教育芸術社（東京），2017
- 4) 小原光一 監修、小学生の音楽 2，教育芸術社（東京），2017
- 5) 森本琢郎：リズム・ワーク、メロディ・ワーク、34-68，ドレミ楽譜出版社（東京），2006
- 6) 田中常雄 監修：こどものうた[簡易伴奏曲付]、2-232，圭文社（東京），2015
- 7) 田丸信明 編著：夢見るピアニストこども名曲集，6-45，ドレミ楽譜出版社（東京），1999
- 8) 江頭義之、山本千紗、こどもと音楽表現 I（ピアノ），1-114，姫路大学教育学部通信教育課程，2016

## 参考文献

- 1) 茨木金吾：保育の現場における使用楽曲の傾向について、豊岡短期大学論集（13），11-20，2016
- 2) 早川史郎、佐藤亘弘：こどもの歌で学ぶ楽典のエチュード、6-133、エー・ティー・エヌ（東京），1996





ソルフェージュ課題 I (二声リズム)

1  $\frac{4}{4}$  2  $\frac{4}{4}$  3  $\frac{4}{4}$  4  $\frac{4}{4}$  5  $\frac{3}{4}$  6  $\frac{3}{4}$  7  $\frac{3}{4}$  8  $\frac{4}{4}$  9  $\frac{2}{4}$  10  $\frac{2}{4}$

図-2

ソルフェージュ課題Ⅱ (視唱)

The image displays ten numbered musical exercises for sight-singing. Each exercise is written on a single staff with a treble clef. The exercises include various chords and rhythmic patterns:

- Exercise 1:** Treble clef, C major. Chords: C, F, C, C, F, G7, C.
- Exercise 2:** Treble clef, C major. Chords: C, C F C, G7, C, F, Am, G7, C.
- Exercise 3:** Treble clef, C major. Chords: C, Gm, C, G, C, F, G7, C.
- Exercise 4:** Treble clef, C major. Chords: C, G, G7, C, C, F, G, C, G7, C.
- Exercise 5:** Treble clef, C major. Chords: C, G, G7, C, C, F, G7, C.
- Exercise 6:** Treble clef, C major. Chords: Am, Dm, Am, Dm, Am, E7, Am.
- Exercise 7:** Treble clef, G major. Chords: G, D, D7, G, G, Am, D7, G.
- Exercise 8:** Treble clef, G major. Chords: G, C, D7, B7, C, D7, G.
- Exercise 9:** Treble clef, F major. Chords: F, F, C, Dm, G7, C, F, C7, F, C7, F, Bb, F.
- Exercise 10:** Treble clef, F major. Chords: F, F, F, Bb, C, C7, F.

図-3